

2018年のラストは3ヒート制の特別開催！ 清原選手が久々のカート参戦を勝利で飾る

■ 2018年12月16日 ■ 鈴鹿サーキット国際南コース（三重県） ■ 晴れ（ドライ） ■ 参加台数：21台

2018年ラストの大会は“特別開催”と銘打って行なわれる一戦だ。この大会限定で、レースはタイムトライアル→クオリフィケーションヒート（10周）→プレファイナル（12周）→ファイナル（16周）の3ヒート制で実施される。しかも、3つのヒートすべてにシリーズポイントが付与され、すべてのヒートで1位になると一気に74.5点を獲得することができるビッグチャンスだ。加えて、35歳以上のドライバーには“マスタークラス”として上位3名の表彰が用意されている。

このスペシャルラウンドにエントリーしてきたのは21名のドライバーたち。全日本カート選手権トップカテゴリーの元チャンピオンや現役ドライバーなど、スポット参戦の選手も多数参戦してきた。

タイムトライアルでは全日本OKドライバーの宮下源都選手（TONYKART RACING TEAM JAPAN）がトップタイムをマーク、2018シリーズチャンピオンの水越健太選手（MOMOX KART RACING）が2番手と、スポット参戦組がトップ2を占めた。3番手以降には金田翔選手（TAKAGI PLANNING）、東拓志（NEXT-ONE Racing）、横山直輝選手（ぴいばあばん）、伊藤慎之典選手（HRT）が続いた。マスタークラスでは岡本孝之選手（ハラダカートクラブ）が総合11番手でトップに着けている。

クオリフィケーションヒートでは、スタートでひとつ順位を上げた東選手が宮下選手と水越選手にぴたりと続き、3台でポジションチェンジの応酬を繰り広げた。その結果は、3番手で最終ラップを迎えた東選手が前の2台を相次ぎパスして1位でゴール。プレファイナルのポールは東選手のものとなった。

水越選手と宮下選手はトップと僅差の2・3位。金田選手が単独走行で4位に。マスタークラスでは西島毅選手（ぴいたあばん）が総合12位でゴールしてトップに。幸澤博輝選手（パワーワークス）が2番手、加藤丈宜選手（MOMOX Kart Racing）が3番手となった。



Pre Final

(11LAPS)



プレファイナルではスタートで赤旗提示によるディレイがあり、12週のレース予定を1周減らして11周で2度目のスタート進行が行なわれた。ポールの東選手はこのハプニングにも動揺せずスタートをうまく決めると、1周で後続に0.5秒ほどの差を開いた。しかし、間もなく水越選手と宮下選手が東選手に追いつき、またもこの3台によるトップ争いが繰り広げられた。5周目、水越選手が東選手をかわしてトップに立った。

水越選手の真後ろでは、東選手と宮下選手がテール・トゥ・ノーズのバトルを展開。8周目に宮下選手が2番手に上がっても、東選手との接戦はまだ決着しない。このバトルがヒートアップする間に、トップの水越選手は1秒以上のリードを広げた。

安全圏内へ逃げることに成功した水越選手は、ファイナルへ向けてペースをコントロールしながら残る周回を走り切り、1位ゴールでファイナルのポールを獲得した。2位は宮下選手。東選手は宮下選手と約0.2秒差の3位でチェッカーを受けた。

マスタークラスでは、西島選手が総合11位でトップに。京竹健吾選手（AP SPEED with SOVLA）が2位、岡本選手が3位となった。



1st PLACE : 水越 健太 選手

前半は東選手に比べて苦しかったけれど、後半はこちらの方がペースがよくて、無難に逃げ切れました。タイヤも次の決勝に温存できたし、プレッシャーも受けずに走れる、いい展開になりました。決勝はポールから先頭のままゴールするのが理想なんですが、ここからタイヤの使い方の差が出てくると思うので、上手に逃げ切りたいです。雲が出てきたけれど、低い気温のレースは得意なので問題ありません。雨さえ降らなければいいです。



2nd PLACE : 宮下 源都 選手

ミッションカートは多少ミスがあっても立ち上がりでうまく加速できてしまうので、前を抜くのが難しく、先頭に追いつくのに手間取ってしまいました。できれば1位でゴールしたかったですね。決勝はまたフロントロウからスタートできるので、スタートでトップに立って、そのまま逃げ切りたいです。スタートがレースのポイントになると思います。



3rd PLACE : 東 拓志 選手

クオリフィケーションヒートではスタートがうまくいかなかったのですが、今回はそれを修正して、うまくスタートすることができました。その後は、ペースが足りませんでした。決勝のスタートで前にマシンがいるのは少しやりにくいけれど、序盤は無理せず最後にトップでゴールできれば、と。3番手のままでもトップグループの中で走りたいですね。



この日最後のスタートでは、ポールの水越選手が綺麗に発進したのに対して、セカンドグリッドの宮下選手はややもたつき5番手に後退。東選手も4番手に下がり、替わって開幕2連勝中の廣岡陸勢選手（トレンタクワトロ）が4番グリッドから2番手に、2009全日本KF1クラス王者の清原章太選手（TONYKART RACING TEAM JAPAN）が8番グリッドから3番手に浮上した。

水越選手は徐々に後続を引き離し、やがて約0.8秒のリードを築く。だが、それ以上のハイペースで挽回を図る宮下選手が水越選手を追い詰め、9周目にトップへ躍り出た。ところが、ふたりの優勝争いは10周目のアクシデントへと発展。水越選手はスピンを喫し、宮下選手も4番手に順位を下げた。

替わって先頭に立ったのは清原選手だ。その真後ろには東選手が続いている。この接近戦はチェッカーの瞬間まで続いたのだが、清原選手は大きな隙を見せることなく走り切り、ほぼ5年ぶりのカートレース出場を勝利で飾った。東選手は逆転優勝こそ叶わなかったが、2位入賞でレースを締めくくった。

宮下選手は再度の追い上げの末、3位でフィニッシュ。横溝選手が4位、伊藤選手と小林弘直選手（HRT）のチームメイトふたりが5位と6位でチェッカーを受けた。

マスタークラスでは、西島選手が総合10位でゴールしてクラス優勝を獲得。岡本選手が2位、幸澤選手が3位となって表彰台に立った。



WINNER：清原 章太 選手

勝っちゃった……って感じのレースでしたね。久しぶりのカートレースということもあって、とにかく体力的にキツかったです。なので、楽しくレースできればいいかなというくらいの気持ちだったんですが、頑張らなきゃいけないポジションになってしまって、とにかくスタートからゴールまで全力で走りました。ROK SHIFTERはミッション付きで独自の面白さがあるし、スタンディングスタートも新鮮でした。ただ、僕はミッションカートに慣れるのに精一杯で、今回はセッティングを煮詰めるところまで行けませんでした。



2nd PLACE：東 拓志 選手

今日是一日を通してあまりペースがよくなかったです。ラッキーな展開で2位に上がった後には、清原選手を抜くチャンスもあったけれど、それを逃して以降は清原選手のペースが上がって逆転できませんでした。悔しいレースだったけれど、レギュラー参戦組の中ではいちばん大きいポイントを獲得できて、その点では意味のあるレースになったと思います。



3rd PLACE：宮下 源都 選手

ファイナルはスタートの失敗に尽きます。それで順位を下げた後、ペースは悪くなかったので落ち着いて走ろうと思っていたんですが、アクシデントが起きて……。3位にはなれたけれど、ちょっと悔しいです。ミッションカートのROK SHIFTERはやることがいろいろあって、面白いですね。この次参加する機会があったら、その時は今日のリベンジです。

Master Class



Master Class WINNER : 西島 毅 選手



今日はレースが3ヒートあって、へとへとになりました。とにかく、体力を最後までもたせることしか考えてなかったですから。あまり自慢できる総合順位ではなかったけれど、マスタークラスで勝ててよかったです。このレースでは今まで表彰台に乗ったことがなかったので、うれしいです。またこういう(年齢別の)クラス別表彰をやってほしいですね。

